

クラス番号	611	担当教員名	横井 優子
テーマ	地域で子どもや家族を支援するための心理臨床		
著書・論文 研究課題等	著書・論文；・「魂と心の知の研究」 創元社 「電話相談とその対象」 (296-302) (2001) ・修士論文「児童虐待における地域支援 ―ネットワークの構造から考える―」 日本福祉大学 社会福祉学研究科 福祉マネジメント専攻 (2004) ・ 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 創刊号 「発達障害の子どもを持つ親への支援―子どもへの共感が難しい親との面接から―」 (83-96) (2006) ・ 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 第3号 「幼児教育における保育カウンセラーの機能について―個別支援と集団への関わりについて―」 (45-54) (2008) 研究課題；児童虐待防止や発達障害など地域での子育て支援のためのネットワーク・幼稚園・保育園や小中学校での保育カウンセラー・スクールカウンセラーとしての臨床研究		

ゼミナール概要

キーワード：子育て支援，学校臨床，協働，連携

目的，内容，方法等：子どもが生まれ育っていく過程には，様々な支援が必要です。一つの機関や専門家だけでなく，それぞれの専門家や各機関が協力して支援することが必要になることも多くなります。子育ての際に，様々な理由から周囲からの支援が必要な親や，発達障がいなどのために通常の子育てでは関わることの難しい子ども達もいます。児童虐待など，子育ての難しさから起こる事件もあります。それらを防ぐためのシステム作りには，保健・福祉・教育など，様々な機関の連携が必要です。乳幼児では，保育園・幼稚園・子育て支援センターなどにつながる育児支援の流れがあります。乳幼児健診から療育までの発達障がいの子どもへの支援体制など，いくつかの機関が協力して行う連携，協働という視点で，学習・研究を行います。

小中学校では，不登校や学校で起こる不適応に対して，教師とは違った視点を持つスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーという役割で子どもに関わり，教師と協力していくコラボレーションやコンサルテーションという他業種の視点を加え，協力体制を組むことについて学習します。

他業種の人達と関わる際には，ある問題は何か，どこから取り組むのかを心理職として見立て，他の職種の人たちにも理解できるように伝えるということが重要となります。「不登校」という状態をひとつ取り上げても，情緒的な問題，発達障がい，家庭環境の問題など，様々な原因によって起こっている可能性があり，様々な可能性を考慮して判断することが必要となります。また，視点はひとつだけでなく，子どもだけでなく，家族や学校などの状況を判断して，支援や環境調整することも必要になります。

授業計画：そのために，基礎的な知識が必要となるので，まずは発達などの基礎的な知識を身につける学習をします。また，研究の技法として，論文を読み，要約する練習をして自分の興味関心を明確にしていきます。その上でレポートにまとめて提出し，レジュメを作って相互に口頭で発表する機会を持ちます。ゼミ合宿や現場の見学等のフィールドワークも計画したいと考えています。

担当教員からのメッセージ



テーマは与えられるものではなく，自分で絞っていくものです。自分の興味関心のあることに積極的に取り組んで欲しいと考えています。プライバシーの配慮など，福祉・心理に関わる者に必要な基本姿勢や配慮について，意識と自覚を持って取り組むことを基本とします。

子どもや家族への関心があり，いろいろな対場の人や機関が協力して地域でサポートしていくという視点を持てる方を歓迎します。自分の意見を整理表現し，他の人のどんな意見にも耳を傾けられるゼミにできたらと考えています。